

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年10月号 通巻58号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

現在入手可能なタヌキの本

意外と少ないタヌキ本



書くネタがなくなったり、最近ではコウモリ調査で忙しいとかいうわけではありませんが、今回は現在入手可能なタヌキの本を紹介します。

タヌキ本4冊紹介

Amazonなどで検索してみると、科学的なタヌキの本は意外と少ないことがわかります。そんな中で現在最も内容が充実しているのは…手前みそですが私、宮本他の共著による「タヌキたちのびっくり東京生活」(技術評論社)です。タイトルの通り、東京都23区のタヌキを中心にした内容ですが、タヌキ一般の説明もちゃんとしています。マンガのページも多くあり、子どもにも読みやすいでしょう。ただ、出版から5年たっているので古くなった情報もあり、内容更新をしたいところではあります。当時はハクビシンやアライグマについては情報不足でほとんど書けませんでしたしね。

「タヌキまるごと図鑑」(著・盛口満：大日本図書)は小学生向けの

薄い本ですが内容は本格的で、重要なことがきちんとおさえられています。学校図書館にはぜひ置いてほしい本です。頭骨とかファンとかも載っていてびっくりするかもしれませんが、これらもタヌキ研究の最前線では欠かせないことです。

「フクロウとタヌキ」(著・波多野鷹、金子弥生：岩波書店)は里山を代表する生物としてフクロウとタヌキを取り上げた本です。タヌキについては、餌付け、交通事故など人間との関係性についても書かれています。事典的な本ではありませんので注意してください。

「野生イヌの百科 第2版」(著・今泉忠明：データハウス)の「野生イヌ」とは野良犬のことではなく、食肉目イヌ科の動物のことです。キツネやオオカミ、ジャッカルなどイヌ科全種が解説されています。もちろんタヌキも含まれています。タヌキ単独ではなく、イヌ科の中の動物としてタヌキをとらえることができます。ただし初版が1993年でするので内容が古い部分もあります。

このようにタヌキの本は少ないですが、他の動物でも個々の種を単独で取り上げた本というのはあまりないものです。

本はいつかは消えてしまう

売れなくなった本は本屋の店頭から消えていきます。「タヌキたちのびっくり東京生活」も在庫が無くなり次第、販売終了となることが予想されます。何十年も売れ続けている本というのは全体から見ると非常にまれなものなのです。

現在入手困難になってしまったタヌキの本はまた別の機会に紹介することにしましょう。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>